

2021年（令和3年）事業報告書

（令和3年1月1日～令和3年12月31日）

SL災害ボランティアネットワーク（以下、本法人という）は、大規模地震等の大災害に備えて「わが身わが命は自分で守る」ことを基本精神に、地域・職場・大学等に根ざした自主的な防災活動、被災地支援活動を行い、災害の被害を軽減することを目的に活動しており、2021年（令和3年）は次の事業を行った。

1. 地域・職場・学校等での自主的な防災活動事業

① 自主活動～地域ネット活動

各地域ネットでは、コロナ禍においても、地域の事情に応じてオンライン定例会を開催し、会員同士の交流と意見交換等を行った。

東京ネットでは、5月に初のオンラインミーティングを開催し、隔月1回定例会を開催することとなった。

② 防災訓練の指導と訓練参加

コロナ禍のため、例年行われていた九都県市合同防災訓練など主だった防災訓練は中止となった。地域等の防災訓練で使用するため非常用炊出袋、レシピ集の頒布は引き続き行った。

③ 受託事業の実施

1) コロナ禍のため、地域、社協、行政からの委託事業も大半は中止となったが、次の事業については、開催形態を工夫するなどして実施した。

- ・神奈川県教育委員会 DIG^{*1} 受託事業：教員 DIG 研修、および神奈川県立高校 6 校を対象に延べ 25 名の SL が講師対応。
- ・神奈川県教職員 5 年経験者研修事業：本法人で作成した教材を提供し防災教育に協力。
- ・船橋市地域防災リーダー養成講座受託事業：5 日間計 10 回にわたり延べ 51 名の SL が講師対応。

2) 小型ネットワーク地震計を会員の自宅に設置し波形を研究する国立研究開発法人防災科学技術研究所の「室内震度の知覚にかかる地域住民の防災意識調査」に協力している。

3) 「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく資金分配団体（2021 年度第 2 回通常枠）への応募を行った。

※1. Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字をとった災害図上訓練のこと。

2. 災害時における被災地支援事業

【静岡県沼津市での豪雨災害支援】

7月3日に発生した沼津市での豪雨災害において、当会の兄弟団体でもある NPO 法人日本沼津災害救援ボランティアの会（NVN；代表 稲木寛男 SL、事務局長 石川学 SL）に、当会を通じて座間ネットワークが高圧洗浄機 3 台を寄付した。NVN は地元が被災されたこともあり、発災直後から被災者宅を回り支援活動を行った。

3. 会員の知識と技能向上のための教育訓練事業

① 自主企画のセミナーの開催

会員による自主的なセミナーとして、次の研修をオンラインで実施した。

- ・4/29 防災講演会「イザという時、人はどうなる」関東学院大学教授細田聡氏
 - ・5/29 防災研修会「心肺蘇生法ガイドライン 2020 を学ぼう」日本ファーストエイド[®]サティ代表岡野谷純氏
- また、SL 防災談話室@mansion も引き続きオンラインで開催した。

第 19 回(1/13)「マンション防災マニュアル作成の心得」他・第 20 回(3/10)「川崎市に於ける避難所運営訓練とコロナ対策について」・第 21 回(5/12)「マンション管理適正化法の改正」・第 22 回(7/14)「コロナ対策の疑問に答える」・第 23 回(9/8)「災害時の食物アレルギー」・第 24 回(11/10)「仙台・熊本での全壊マンションの終焉状況」

② リーダー及びインストラクターを育成する事業

神奈川県教育委員会の受託事業である DIG 事業に関連し、教員向け DIG をオンラインで実施できるよう DIG のビデオ教材を作成し、提供した。

③ 見学会、講演会、等の実施

地域を超えた会員の相互交流・親睦を図るため、各都県域ネットワークでは、オンライン研修会や見学会等を行った。

- ・ 6 月 26 日には SL 全体研修「自分が被災者になったら?!生活再建制度を学ぼう～被災者カードをつかったワークショップ～」(講師 永野海弁護士)をオンラインで実施した。
- ・ 千葉県では 5 月の春季研修で「コロナ禍での避難所運営」の研修会を行った。
- ・ 神奈川県では 10 月に神奈川県総合防災センターの見学会を行った。
- ・ 東京都では 11 月に本所防災館防災体験ツアーを行った。

4. 災害救援ボランティアリーダーを育成する事業等への協力

災害救援ボランティア推進委員会が主催する「災害救援ボランティア講座」等への講座運営を支援し、社団活動の説明を行い、新規会員の確保を行った。

5. その他、目的達成に必要な事業

① 理事会の開催および運営等

主要な理事会を除き、オンラインにて開催した (2/5,3/4,4/2,5/7,6/4,7/2,9/3,10/1,11/5,12/3)。正会員数は 600 人 (12 月末現在)。

② 運営委員会の開催および運営等

東京・神奈川・千葉・埼玉から選出された委員で構成する運営委員会は、11 月、12 月は対面で実施した他は、オンラインで毎月 1 回定例会を開催し、横断的な情報交換、事業の企画・運営を話し合った。

③ 広報啓発事業

災害救援ボランティア推進委員会が年 6 回発行している会員向け広報紙「SL News Letter」の編集・発送に協力した。またホームページ並びにフェイスブックを運用し、広報周知を図った。

④ 関係団体との連携事業

千葉県では、千葉県災害ボランティアセンター連絡会に、埼玉県では「彩の国会議」に、神奈川県では、県民センター支援室会議に参加協力した。また、シェイクアウト提唱会議と協力して、自治体でのシェイクアウト訓練の普及活動を行った。

⑤ 寄付金募集

本年で 4 年目となる寄付金募集について、本法人の財政基盤の強化と活動促進のために会員から寄付金を募ったところ、コロナ禍にも関わらず 653,200 円の寄付金が集まった。集まった寄付金は、SL 全体活動費および災害対応積立金に充てた。

以上